

## 親の養育態度が子どもの愛着認知と自己概念に及ぼす影響

李 和 貞

(お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科)

## 〔目的〕

Bowlby は多くの著書 (例えば、「Attachment and loss」(1973)、「The making & Breaking of affectional bonds」(1979)) を通して子どもが経験する親の態度の重要性について言及している。愛着理論における最も重要な変数は「親が子どもに対する態度」であると考えられる。

このような観点から、本研究では、「父母の養育態度および行動」について注目し、子どもの父母に対する愛着の形成に関与する要因の一つであると想定される、父母の愛情的、激励的、民主的、大人中心的、冷淡的、合理的といった 6 つの養育態度の下位領域が、いかに父母に対する子どもの愛着認知に関連するのかについて検討する (第一目的)。

そして、アタッチメント人物に対する関係性のワーキング・モデルと、自己に対するワーキング・モデルとの間に仮定される前述したような関係に関する基礎研究として、乳幼児期の次に最も愛着人物である父母の影響を受けると想定される児童期を対象に、愛着人物として母親及び、父親をとりあげ、現在母親・父親に対する愛着認知と、自分自身が知覚している自己概念とはいかに関連しているのかについて、質問紙法によって検討することを第 2 の目的とする。特に、学問的、意志的、家庭的、社会的、身体的、道徳的自己概念を用いることによって、自己概念の内容的な側面との関連に注目する。

## 研究課題：

1. 母親の養育態度は母親に対する子どもの愛着認知と如何に関連するのか？
2. 父親の養育態度は父親に対する子どもの愛着認知と如何に関連するのか？
3. 母親に対する子どもの愛着認知はどのように子どもの自己概念と関連するのか？
4. 父親に対する子どもの愛着認知はどのように子どもの自己概念と関連するのか？

〔予備調査〕子どもの自己概念に関する項目

(46 項目)に関する質問紙 (Paek(1994)の児童の自己概念に関する尺度に Pak(1980)の尺度のうち 4 項目を追加) を 2000 年 9 月 首都圏内の小学校の 5 年生児童 67 名に実施し、項目分析を行なって本調査にのぞんだ。(各下位尺度別クロンバックの  $\alpha$  係数を算出したが、どれも .70 以上で比較的の高い内的整合性を示している) 本調査では学問的自己概念 (6 項目) を除き、意志的自己概念、家庭的自己概念、社会的自己概念、身体的自己概念、道徳的自己概念は 7 項目ずつである。

## 〔方法〕

調査対象：首都圏内の小学校に在籍する 5 年生の児童 200 名

測定内容①子どもの自己概念 (Paek(1994)、Pak(1980))：この尺度は 6 つの下位尺度 (学問的、意志的、家庭的、社会的、身体的、道徳的自己概念) から構成されている。

② 親に対する愛着感情 (久保田、1997)：久保田によって作成された母親に関する認識の尺度のうち、<母親への愛着>に関する 10 項目を用いた。こられの項目は、決してそう思わない(1 点)～まったくそうどおりである(5 点)の 5 件法の評定。

③ 親の養育態度の評定：この尺度は 5 つの下位尺度 (愛情的、激励的、民主的、大人中心的、冷淡的、合理的養育態度) から構成されている。これらの項目に対して、児童からみた母親、父親の普段の養育態度を、ぜんぜん当てはまらない(1 点)～よく当てはまる(5 点)の 5 件法で評定。

## 〔結果・考察〕

研究の結果、親の養育態度および行動と子どもの愛着認知、そして、愛着認知と子どもの自己概念において、関係性が見出された。特に、自己への評価と価値において最も重要な影響を有すると考えられる児童の自己概念が、子ども自身が認知する親の養育態度および行動、そして父母に対する愛着認知と密接な関係性があることが示された。